



日本プロ野球選手会 子ども野球応援プロジェクト

ドリームキャッチプロジェクト

概要資料

2023年6月





プロに入って十数年になりますが、振り返っていつも思うのは**「野球は一人ではできない」**ということ。グラウンドに立つ仲間、試合を支えてくれるスタッフの方々の存在があってこそ自分はプロ野球選手でいられるのです。

さらに言えば「野球がしたい」と思った日からの30年以上の年月で、いったいどれだけたくさんの人との出会いに助けられてきたのか。野球を続けてこられたことへの感謝の気持ちは、いつも思い浮かぶ沢山の方々の顔とともにあります。

「好きなことに思い切り打ち込みたい」という自然な気持ちは、人にとってとても大切なこと。

私たち日本プロ野球選手会がはじめる「ドリームキャッチプロジェクト」は、チャレンジする前にさまざまな理由から、それを**諦めなければならない環境にある子どもたちを、少しでも助けたい**という選手たちの想いから生まれました。

夢に向かっていくには、まずスタートラインに立たなければなりません。

そこに立った一人ひとりからどんな物語が生まれるのか楽しみです。

そして、これからも想いを同じくする選手や企業の方々と、このプロジェクトを大きなものにしていきたいと思えます。

一般社団法人日本プロ野球選手会
理事長 丸佳浩

2019年4月に公表した野球界の未来に対する提案

選手会ビジョン2019 全体像

魅力ある野球界のための
好循環作り



1. 野球普及・育成環境の整備
～子供たちに野球を選んでもらうために～

子どもへの
普及・育成

野球界

2. 魅力あるプロ野球の構築
～MLBよりも魅力的なNPBであるために～

現役での
活躍



3. 引退後の充実
～次の世代に貢献するために～

OBとしての
貢献



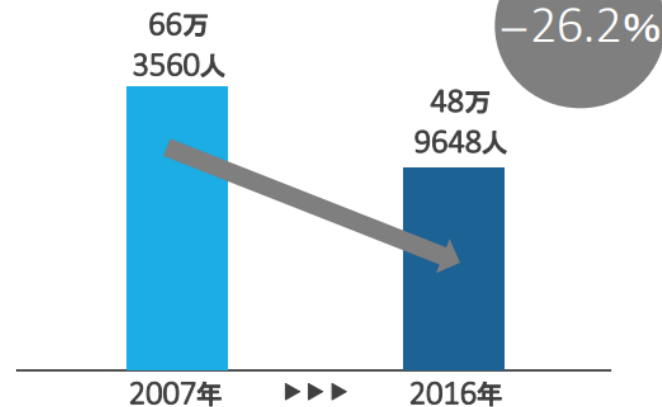
野球が選ばれない現状

1. 野球普及・育成環境の整備

～子供たちに野球を選んでもらうために～



子どもの
野球人口



※小中学生を合わせた数

ひとり親家庭の抱える問題点

- ひとり親家庭はコミュニティからの孤立しがち
- 特に母子家庭は、経済的に困窮
- 子どもは野球を始めたくても、始められない…

野球をやらせることへの問題点

- 野球用具を揃えるのにお金が掛かる
- 親の当番制に対応できない
- 子どもがやりたいと言っても、させてあげられない…

課題解決に向けた選手会の活動

- **野球用具（グラブ、バット、スパイクなど）の提供**
- **年3万円×3年間の活動費の支援**



主宰者	一般社団法人日本プロ野球選手会
支援の内容	3万円相当の道具一式（バット・グラブ・シューズ等）の提供 年間3万円の活動費×3年間の支給
支援人数	24名。
予算	年間320万円～360万円程度（詳細は別紙参照）
応募資格	下記の全ての条件を満たす児童 ・現在、小学校3年生であること（→4年から6年次に支援を受ける） ひとり親家庭の児童、または、児童養護施設の児童 ・野球を始めることが経済的に困難な児童（収入要件） ・野球を始める意欲があり、継続する意思がある児童 他
応募方法	・一般社団法人日本プロ野球選手会へ応募書類の送付(11/20必着)
選考方法	・予め公表した応募資格及び選考基準に従う。 ・選考委員会において最終決定する。



課題解決に向けた選手会の活動（予定）

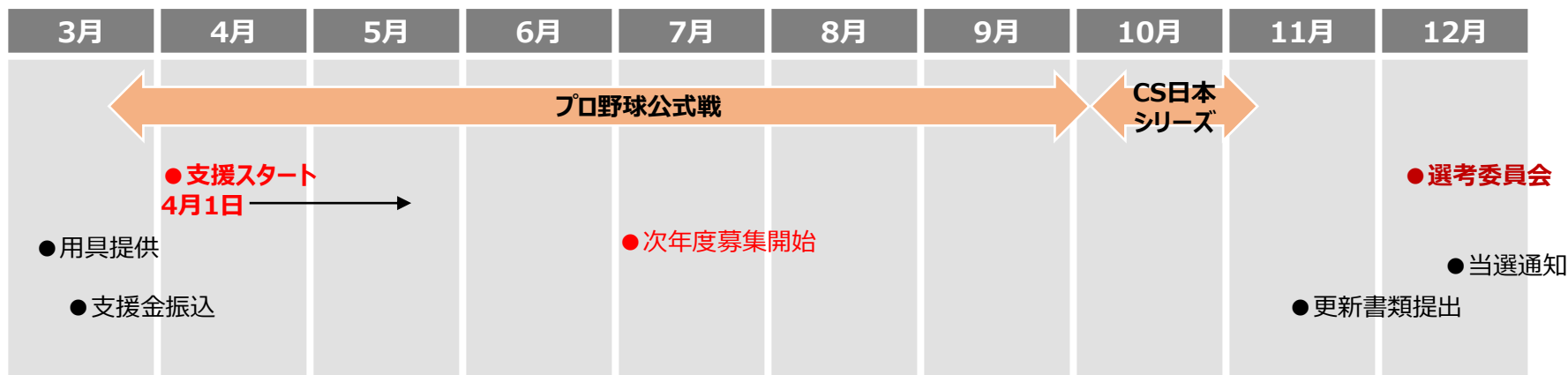
● 当番制などによる負担が少ないチーム探し

→ 全日本軟式野球連盟の協力を得てチームを調査

● オフに所属チームに当会会員選手が訪問

→ 野球教室やチームの入部体験会等に参加し野球普及に繋げる

年間スケジュール



ドリームキャッチプロジェクト運営体制・関係図



ドリームキャッチプロジェクト 選考委員会

日本プロ野球選手会
会長 會澤 翼

一般社団法人日本プロ野球選手会
理事長 丸 佳浩

ゴールドパートナー
ご担当者様

有識者

日本プロ野球選手会
事務局長



一般財団法人全国母子寡婦福祉団体
一般社団法人ひとり親支援協会
全国児童養護施設協議会
日本シングルマザー支援協会



主宰者／運営事務局



一般社団法人 日本プロ野球選手会



支援児童



支援児童



支援児童



支援児童

